

天長三年九月六日

〔日本紀略^{十四}〕天長八年正月壬戌三品明日香親王爲上野大守。

〔鎌倉大草紙〕上州は上杉の分國なりければ、足利は京都并鎌倉御名字の地にてたにことなりと、かの足利の學校を建立して、種々の文書を異國より求め納ける。此足利の學校は、上代承和六年に、小野篁上野の國司たりしとき建立の所、同九年篁陸奥守になりて下向の所、此時に學校をたてけるよし、^略下

國府

〔倭名類聚抄^五〕上野國^{國府在群馬郡行程上}

〔上野名跡誌^二〕^{群馬郡}國分村

和名抄ニ府中間國府^{國府ハ往昔國司ノ住玉ヒ}

〔吾妻鏡〕治承四年九月卅日己卯、新田大炊助源義重入道^{法名臨東國未一揆之時、以故陸奥守嫡孫、插自立志之間、武衛雖遣御書、不能返報、引籠上野國寺尾城、聚軍兵、又足利太郎俊綱爲平家方人、燒拂同國府中民居、是屬源家輩、令居住之故也。}

〔鎌倉大草紙〕永壽王殿關東におもむき給ふ、これにより上杉相模守は越後上野の境へ出むかひ、政事を輔佐し、同顯定は上野國府中へ參、還御の御支度を馳走被申、八月廿七日、上州白井をたち、鎌倉へおもむきたまふよし、聞へければ、^略下

郡

〔倭名類聚抄^五〕上野國^略管十四^註碓氷^須片岡^加甘樂^加多胡^胡邑樂^於那波^止

群馬^{久留未、國分爲東西}吾妻^{阿加}利根^止勢多^多佐位^{新田}山田^{爾布}山田^{夜未}邑樂^於那波^止

〔延喜式^二〕^{民部}上野國大^管利根^{碓氷}勢多^{片岡}佐位^{甘樂}新田^{爾布}山田^{夜未}邑樂^於那波^止

〔上野名跡志^{初編}〕^上延喜式民部^上上野國大^管十四^{和名抄}國郡部^二上野國管十四^{類聚}國史上野

國十五郡十五郡トアルハ、和名抄ニ、群馬^{久留未、府中間國府}國分爲東西二郡トアレバ、群馬郡ヲ東西二郡トカゾ